MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2024.7.13

第 1106 回放送分『感染症』2 回目

ゲスト：西順一郎ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「感染症」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 西順一郎（にし じゅんいちろう）ドクターです。
西さん、よろしくお願いいたします。

西順一郎Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、最近の新型コロナウイルスの状況についてお話しいただきました。
ひと頃は感染が落ち着いていたものの、再び増えているということ。
基礎疾患のある方や高齢者では重症化することもあるので、やはり感染対策は引き続き必要ということでした。
今日は何についてお話しいただけますか。

西順一郎Dr.

今日は新型コロナの治療薬と後遺症についてお伝えします。
まず治療薬ですが、４種類あります。
注射薬が１種類、飲み薬が３種類です。

二見いすず

注射はどのような症状のときに使うのでしょうか？

西順一郎Dr.

レムデシビルという注射薬で、入院したときに使います。

二見いすず

飲み薬は３種類ということですが、それぞれどのように違うのでしょうか？

西順一郎Dr.

ラゲブリオとパキロビットパックは、高齢者や基礎疾患のある方が重症化予防のために服用します。
ゾコーバは 12 歳以上で誰でも服用でき、症状を軽くする効果があります。
これらの治療薬はすべて、後遺症を減らす効果があり、また、排出するウイルス量を減らし、周りにうつすのを減らす効果もあります。

早期診断、早期治療が大切です。
費用が高めですが、飲むことをおすすめします。

二見いすず
分かりました。続いて、コロナの後遺症について教えてください。

西順一郎Dr.
はい。後遺症はオミクロン株になって減っていますが、今でもみられています。
正式には罹患後症状と言われ、コロナの感染から２～３か月以上、さまざまな症状が続くことを言い、世界的には Long COVID と言われています。

二見いすず
Long COVID！なるほど、という名前ですね。
後遺症になるのは、どのくらいの割合なのでしょうか？

西順一郎Dr.
当初は感染した人の 10 数%でしたが、オミクロン株になってからは、数%に減っています。
倦怠感、脱毛や咳などが続き、日常生活に支障をきたす方もみみられます。
急性期の症状が強いと、後遺症の出現率が高くなる傾向があります。

二見いすず
そうなんですね。

西順一郎Dr.
ただ、別の病気が隠れていることも多いので、コロナの後遺症と自己判断するのではなく、他の病気の可能性がないか、しっかりと診てもらうことが大切です。

二見いすず
よく分かりました。
今月は、「感染症」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 西順一郎ドクターでした。
西さん、ありがとうございました。

西順一郎Dr.
ありがとうございました。